

會 報

第606号

2019年3月1日発行

一般社団法人

監査懇話会

編集発行人 菅野 重雄

<https://kansakonwakai.com>

第755回講演会

2019年1月22日

演 題：2019 年日本経済の展望～イノシシ年の波乱

講 師：第一生命経済研究所経済調査部・首席エコノミスト 熊野 英生氏

《今年のキーワードはワイルドマーケット》

今年は亥年。イノシシは英語で言えばワイルド・ボー、世界の経済情勢はワイルドマーケットになるのではないかと。日本も昨年後半から株価の乱高下に見舞われている。その元凶は言うまでもなく、トランプ大統領。ボブ・ウッドワードの著書『FEAR 恐怖の男 トランプ政権の真実』によれば、トランプは朝11時にならないと仕事を始めないという。1日6～8時間はテレビを見る生活で、首席戦略官だったスティーブ・バノンがしばしば「そのくだらないテレビを消せ」と言わなければならなかった、という。彼が大統領に選ばれたのは2016年末。17年が平穏だったのは、国務長官のティラーソン、国防長官のマティスの2人の賢人がいたから。トランプが言い出す無理な政策について、2人は話だけは聞いて、まともな政策に切り替えて部下に指示をしていた。そのうちにトランプが自分の指示を忘れてしまう。いわば2人がトランプを背後から羽交い絞めにしていた。ところが、ティラーソン、マティスとも昨年辞任。止める2人がいなくなった今年はトランプを野に放ったも同然で、経済、軍事、外交全てにおいて、トランプ発の“乱”が続発し、日本も大きな影響を受けることが危惧される。

《国内的には良いイベントが続く》

国内的には今年は景気を上向きにさせるイベントが相次ぐ。5月に元号が切り替わり、人々の考えが前向きになり、経済的なチャンスがある。昭和から平成になるときは昭和天皇のご病気、ご逝去があり、前後の半年間は自粛ムードが続いたが、今回はプラスしかない。「少子化ストップ元年」、「売り上げ倍増、利益倍増元年」等、「何とか元年」が流行るのではないかと。これを機に結婚、出産が増えるかもしれない。ミレニアムの2000年は実際に結婚件数が前年より4.7%増になり、勢いは2年間続いた。5月1日の結婚式場はもはや取れない、という話も出ている。また4～5月の10連休は旅行需要を大いに刺激する。JTBからはGWの海外旅行の予約は昨年の2倍という数字が出ている。国内旅行需要もかなり大きくなると思われ、

旅行全体で昨年の18%増、金額にして3500億円になると見ている。6月には大阪でG20サミットが開かれる。トランプ、習近平、メルケル、メイ、マクロンも来て、日本発の情報発信が増え、大阪経済も活性化する。7月の参院選は安倍首相が9月からの憲法改正に向けて、衆参ダブル選になるかもしれない。9月にはラグビーW杯で海外からのファンがどっとやってきて、昨年3110万人だった訪日観光客の数は今年3550万人と見込まれ、インバウンドの効果は日本経済に貢献する。10月の消費税増税は家計に与える影響は少ないと考えられる。詳細は後述するが、増税対策を計算すると財政的には4000億円の持ち出しになっており、景気刺激に寄与する形だ。

《海外要因はネガティブ》

波乱要因は海外にある。2月末に米朝首脳会談が開かれる。昨年後半、為替は109～114円の円安傾向で推移したが、これは同年6月の米朝首脳会談で、東アジアの地政学的な危機が去ったことによる。北朝鮮の非核化は遅々として進まず、2度目の首脳会談でも大きな進展は望めないかもしれないが、決裂は考えにくい。それなりにうまくいけば、今のところ円高になっている為替は再び円安基調になるだろう。

米中の貿易戦争では3月に予定されている貿易協議の結論はどうなるか。次官級会談で中国側が2024年までにアメリカからの輸入を増やし貿易黒字を解消する案を示したことで、マーケットは楽観論に傾いている。日本にとっては株価上昇、さらなる円安が期待される。しかし、米中貿易問題は両国の覇権争いでもあるので、そう簡単に事は運ばない。トランプは再来年の再選で頭が一杯で、3月の結論では早すぎる。年央辺りまで結論を持ち越し、大いにもめて最終的に自分を取りまとめた、という形にして国民にアピールしたいのではないかと。今年前半、海外の政治・経済的イベントが集中し、経済的に前半が勝負の時期と言うエコノミストもいるが、それは間違い。トランプは大統領選を見据えながら、今年後半から年末にかけて大きな花火を打ち上げ、我々を翻弄する可能性が高い。油断は出来ない。

《為替・原油・株価の推移》

海外情勢が我が国に影響を与えるのはまずは貿易だが、それよりもストレートに反映するのが為替。昨年は日本にとって円安という非常に良い動きだった。企業の為替予測は実際には104～105円台になっても107円想定と非常に保守的であり、12月で109円想定と2円円安に修正した。為替は含み益となって今年3月の決算ベースでは企業収益は上振れる可能性が大きかった。しかし、今年に入って少し情勢が変わってきた。年初、1月3日のマーケットで薄商いの中、投機筋が入り一気に104円台まで動いた。これまでの為替含み益がなくなり、円高になるリスクを人々が感じ、企業のマインドを冷やした。今後、絶好調だったアメリカ経済が、多分変わっていく。年内に2回予定されていた利上げは回数が減る見通しだ。米金利が上がらないと、ドル高は後退し円が買われ円高を招く。104～101円まではいかないにしても105円台までいく展開はありうる。企業にとって今年は円安による含み益は期待できなくなる。

一方で、原油の下落といったボーナスのような良い動きもある。為替含み益が期待出来なくても、フローの部分で原油の下落は利く。ニューヨークの株価がピークアウトした昨年10月初め、原油は1バレル当たり70ドル台で企業は為替含み益を吐き出しても足りず、製品への価格転嫁を考え始める情勢だった。ところが今は50ドル台で3割下がっている。日本の鉱物資源の輸入は年間9兆円なので、このままいけば3割、3兆円節約でき、企業収益の押し上げ効果が期待できる。5月発表の企業決算に向けてじわじわと利ってくる。

他にも原油価格の波及効果は大きい。国際収支が赤字の非産油国は原油価格が上がると通貨が売られやすく、通貨危機に陥る。原油価格が下がるとこれら新興国の通貨が安定し、世界の為替の安定に寄与する。自動車販売にも効果は及ぶ。米中が車需要の2大国だが、原油の下落は販売の下支えになり、大きな盛り上がりは期待できないにしても、底堅さを演出することになる。

今、国内景気についてネガティブな見方が広がっている背景には株価の下落がある。株価は昨年2万4千円あったものが、いまは2万1千円いくかどうか。米中貿易戦争の行方もあるが、日銀のETF買いも続いており、大きく下げる局面はなく、底堅さを見せると思う。ただ、頭に入れておいてほしいのは、株価はピークアウトしたということ。世界的にはヨーロッパ、中国などは昨年1月にすでにピークアウトした。例外的にニューヨークと日本だけが株価の上昇を経験した。昨年1月からのトランプの1.5兆ドル（170兆円）もの大型減税により、アメリカ経済は絶好調を維持し、株価を秋口まで押し上げた。今やその効果がはげ、日米ともに株価は下落基調にある。今年、日本の株価は乱高下を繰り返すだろうが、下落のモメンタムが働いていることは注意した方がよい。



《アメリカ、中国のリスク》

今、エコノミスト業界の話題は一点、アメリカ経済の行方。昨年のトランプ減税で経済があまりにも強かったために、その効果がなくなった今年がどうなるか、全く予測がつかない。経済成長率で見ると、アメリカの潜在成長率は2%程度なのに、昨年4～6月期4.2%、7～9月期3.5%と異様に強く、まだ統計が出ていない10～12月期もクリスマス商戦の売り上げは対前年比5%増という。減税効果に依存しているので、効果は減税が始まった時は強く出るが一年経つと効果は剥落する。今年は2.3%程度の成長と見込まれる。これまでの平均に戻る。しかし、株式市場は減税効果を織り込みすぎたために、成長率が普通に戻っても株価の下落の勢いが止まらない。また、アメリカ経済の構造調整圧力が強まっている。アマゾンエフェクトで百貨店や小売り大手が閉店に追い込まれ、ショッピングセンターの客も減っている。消費がリアルな世界からネットにシフトし、構造調整圧力として出ている。この動きは一回り遅れて日本にもやってきそう。日本では1990年代に不良債権問題が出現したが、バブル崩壊から10年近く遅れて構造調整圧力が金融的な不採算貸出として出てきたものだ。我が国も人口減を要因として経済の構造調整を図らなければならない局面が出てきそう。

もう一つの問題、中国。米中間で関税率を上げる競争になっているが、この競争にはセオリーがあって同じ比率で関税を上げていくと、先に音を上げるのは経済規模が小さい方だ。経済規模でアメリカ100に対し中国は60と6割しかない。先にダメージが出るのは中国、となる。中国は2015年秋にも人民元の切り下げで資本の流出が止まらず、不況に陥る一歩手前までいったが、国家的なインフラ投資で何とか持ちこたえた。今回の結末はこの時よりももっと大きな振幅で景気が下押しされるのではないかと。中国が世界経済のエンジンだった状況は終わり、19年以降も続くはずだ。この貿易戦争はトランプ対習近平の個人的争いで

はなく、自国の覇権を維持し中国のそれを許さないというアメリカの与野党問わずの共通認識があるためだ。アメリカはことにサイバーセキュリティの強化に力点を置いており、着地まで5～10年の長丁場になると見込まれる。

悪いシナリオを考えれば、中国のハイテク産業に過剰生産問題が起きそうだ。中国は能動的にアメリカを抜くため「メイドインチャイナ2025」と名付けた経済政策を実施中で、25年までにはアメリカをキャッチアップしようという戦略を取っている。その実像はハイテク産業を中心に最先端の15分野にわたって、中国企業に補助金や税制優遇などの支援を行い、世界のシェアの半分、或いは7割近くを獲得しようとするものだ。かつての重厚長大産業に対する支援とそっくりだ。04年から11年にかけて重厚長大産業に4兆元もの支援を行い、結局は鉄鋼などの過剰生産を招き、日本やヨーロッパへのデフレ圧力となった。今回の支援は貿易戦争の決着の仕方にもよるが、到達点の25年までには過剰生産問題として顕在化するのではないのか。

過去の経験則がある。最近の世界経済の動向には、10年毎にバブル崩壊がやってきた。1989年のブラックマンデーを皮切りに、この時アメリカ経済はその後4年間にわたって不況となった。1997年にはアジアの通貨危機があって、2007年にはリーマンショックに見舞われた。それから10年の17年は何も起きなかったが、ここ数年で同様な事が起きるかもしれない。中国のハイテク産業の過剰生産問題がいつ表面化するのか。中国は時価会計になっていないので、不良債権を値洗いせずにすみ、企業は資金繰りさえつけば破綻しないようになっている。しかし、不良債権が拡大していけば、どこかで行き詰まる。成長率が今の6%台半ばから4%台に落ち込むころには顕在化する予測がある。ただ中国は地域によって経済情勢が大きく違い、日本のように一国としてとらえることが難しく、中国全体ではなくその中でバブル的なところが徐々に崩壊する形をとるのではないだろうか。

《国内の景気情勢》

国内の景気情勢は製造業の生産活動で決まる。人口減の日本では内需はそれほど変化はなく、景気を左右しない。20年間のGDPの変化を見ればよくわかる。右肩上がり景気を引っ張ってきたのは外需。一方、個人消費、設備投資はほぼ横ばいだった。海外情勢が成長を続ければ、日本は輸出が伸びて景気が良くなる図式だ。GDPの構成項目にはないが、企業収益もずっと右肩上がり。なぜか。製造業が輸出で儲けて、恩恵を他分野にもたらしてきたから。日本経済は2013年からアベノミクス効果で景気回復が続いているが、09年から見た生産指数は2年サイクルで上昇・下降を繰り返している。現在は18年1月をピークにスローダウンして今年も秋口までは下降局面が続く見通しだ。外需はちょっと苦しい。

しかし、半面日本は景気後退になかなかならない粘り腰の側面もある。企業収益に現れており、損益分岐点が下がり、売り上げは落ちてでも利益を出せる体質になってきた。企業収益は10年前のリーマンショック時には15兆円だったのが、今や7兆円積み上がって22兆円にまでなった。外部環境が悪くなっても利益を上げ、打たれ強くなっている。今の景気の特徴は過熱感がない一方、人手不足を伴っている。企業収益が上がった結果、リストラ、雇用調整をせずにすんでいるためだ。非自発的失業者は35万人で完全雇用状態ともいえる。その結果、内部労働市場から外部労働市場への放出がなく、中小企業は人が取りにくい。人口減の今、この問題は将来的にも解決が難しい。

《消費税増税～対策の打ちすぎとシンクロする反動減が怖い》

リスク要因として、10月の消費税増税を見てみよう。ネガティブに見る人は「何が起きるかわからない」というが、合理的に考えると今回の増税による家計負担は小さい。2014年は3%上げに対し、今回は2%上げで33%の負担減。さらに軽減税率があるので、14年時に比ベータ半分の負担で済む。これに加え、年金生活者支援給付金、キャッシュレス決済された消費金額の5%ポイント還元、住宅ローン軽減の延長等々各種対策がある。それらを細かく計算してみると、19年度中の増税負担2.6兆円に対し1.6兆円割り引かれ、家計負担は1兆円に止まる。加えて、これに乗じた形の国土強靱化という名の公共事業支出があり、これを含めると、19年度は4200億円の支出増になっている。消費税増税を起点とした景気の腰折れは考えにくい状況だ。

しかし、話はここで終わらない。19年度はいいが、その後は諸々の増税対策の効果は剥げていく。増税による景気悪化を先送りしたに過ぎない結果になるかもしれない。最も怖いのは、増税対策の反動減と東京五輪の反動減がシンクロして、景気の落ち込みが1.5倍から2倍にもなりはしないか、ということ。来年正月、この場で「20年の今年前半は大丈夫だが、五輪が終わった後半は厳しい」と言わざるを得ないかもしれない。安倍首相が自らの任期中だけ景気が良ければ、とこれだけの増税対策メニューをそろえた節もあり、その後が心配だ。東京五輪に代わる新しい目標、国民のマインドを前向きにさせるものを見出すことができるかどうか。来年の課題になろう。

増税後の影響を前回で見ると、医療・旅行・娯楽などのサービス業は立ち直りが早かったのに比べ、衣料品・雑貨などの半耐久財の落ち込みがひどかった。生活コストの上昇が家計の購買力を絞った結果だ。日本の世帯主の有業率は6割で、年金生活者を中心にした働かない世帯主は4割に上る。65歳以上3500万人のうち働く人は800万人。2700万人は年金所得だけで勤労収入はない。賃金が上がってもこの人たちは恩恵に浴さない。この層は消費税増税で確実に購買力は落

ちる。2004年に始まった年金改革は粛々と進んでおり、今後年金生活者になる層の将来の購買力も落ちていくことは目に見えている。シニア層は日本に残された最後の「働く原資」とも言えるので、彼らを活用する方策を見出すことが今後の成長戦略にとって重要になる。

《働き方改革こそ》

結論として、これまで述べたように今年の日本経済は山あり谷ありではあろうが、総じて底堅く、打たれ強いものになると思う。

労働側に目を転じれば、最近日本人の勤労意欲が落

ちていることが心配だ。半面、OECD調査では日本の人材の質は世界で上から4番目という。モラルは低い能力は高い、というミスマッチが起きている。働いた成果が自らに返ってくることが少ないせいだと思われる。労働分配率はリーマンショック以来低下傾向にあり、賃上げはあっても翌年の賃上げを保証するベースアップはやらない企業が多く、勤労のモチベーションを下げている。働き方改革で大切なのは、働くことにやりがいを感じさせ、生産性を上げること。シニア層の購買力が上昇しない以上、勤労者の所得を上げていくしかない。シニア層が働ける機会を増やすことも忘れてはならない。これら大きな課題に取り組む年でもある。

(文責 清水 光雄)

第549回研修見学会

2019年1月4日

「東海七福神めぐり」

1月4日、雲一つなく、そう寒くもなし。4日(金)にするか7日(月)にするか悩んだあげく、4日に決定したのが響いたのか、参加者は例年より少なく、それでも60名の方が参加された。内3名が所用で懇親会からの参加。57名の方が10時、京浜急行新馬場駅に集合、約6km、大森を目指す。

実は、17年前の2002年の七福神巡りも東海七福神であった。私(眞田)がこの時以来、今回まで七福神巡りを担当してきた。

さて、品川宿は旧東海道の最初の宿場であり、交通の要所、古くから天下人がこの宿場に立ち寄っている。

品川神社には頼朝が安房から下総に、そして武蔵を経て鎌倉入りするとき、立ち寄ったと推察される。と言うのは、安房の洲崎神社(館山市)から、天比理乃咩命(あめのひりのめのみこと)を勧請して祀り、品川大明神と称したのに始まっているからである。

次いで、徳川家康が関ヶ原への戦いに出陣するとき、品川神社を参拝して戦勝祈願を行った。徳川家の崇拝する特別な神社として、社紋は「丸に三つ葉葵」である。

荏原神社には、康平5年(1062)、源頼義・義家父子は、安部貞任を討とうとした際(前九年の役)、当神社に参詣し、海に出で身を清め戦勝を祈願した。現在でも神輿の海中渡御(とぎょ)「かっぱ祭」の行事が沖合で行われている。

明治天皇は、明治元年の遷都の際、江戸に入る前にこの神社を訪れ、品川宿本陣(現在はその跡地が聖蹟公園になっている)に宿泊している。

17年前と今回ではコースはほぼ同じであるが、3か所追加したところがある。

一つは、品川神社の本殿右手、石段を下ったところの奥にある下社。ここには「一粒万倍の泉」がある。ここで銭を洗うと万倍になって返ってくるということで、紹介させていただいた。

二つ目は、青物横町駅近くの海雲寺の平蔵地蔵。その来歴は次のようである。

平蔵は仲間と鈴ヶ森刑場の番人をしながら交代で街に出て乞食をしていたが、万延元年(1860)頃の或る日、大金が入った財布を拾い、落とし主の仙台藩士を探し、当然のこととして金を返し、お礼の小判を断った。それを知った仲間は、金を山分けすればよかったのにと怒り、自分たちの小屋から追出し、凍死させてしまった。これを聞いた仙台藩の若い侍が平蔵の遺体を引き取り、青物横丁の松並木の所に地蔵を立てて供養した。明治32年、京浜電車建設にひっかかり、海雲寺の和尚が引き取ったものであるという。

三つめは鮫洲八幡神社。この地はかつて御林町(おはやしまち)という漁師町であった。御菜肴八ヶ浦(おさいさかなはちがうら)江戸湾の新鮮な魚介類を將軍家に献上する義務を持たされた八つの漁場の一つであり、江戸湾44ヶ浦の漁業上の元締めとなって、優先的な特権を持っていた。境内には土地柄、漁師の寄進した嘉永2年(1849)造立の狛犬や安政3年(1856)造立の灯籠があり、境内を囲む古い石垣も漁師が寄進したものである。東海道は、小田原までは海辺を通っていたのであり、我々はその産業は漁業であったことを忘れてしまっている。品川神社富士塚の眼下には海が迫っていたのである。安藤広重の描く品川宿(次ページ)は、宿の後ろに海が描かれている。また、鈴ヶ森の処刑では、八百屋お七らは火あぶりの刑であったが、「水磔(すいたく)」という処刑もあった。処刑場の前の海に逆さにはりつけ、満潮時には水没してしまうという刑である。

七福神の、品川神社(大黒天。ここでの参拝は若干の待ち時間が生じたが、他はスムーズに参拝)、養願寺(布袋尊)、一心寺(寿老人)、荏原神社(恵比寿)、品川寺(ほんせんじ)(毘沙門天)、天祖諏訪神社(福



禄寿)、そして最後の磐井神社(弁財天)を巡り終えて、13時10分、JR大森駅近くの「てけてけ」の鳥鍋で会食。菅野会長のあいさつから始まって、締めは野村研修見学会委員長、その前に石原克己氏より、17年間にわたり七福神巡りを担当した私に対し、ねぎらいの言葉をいただいた。長い間ご協力いただいた皆様に感謝

いたします。

今回は、研修見学会委員のみなさん、とりわけ杉山委員には、地図の作成や会食場所の選定など務めていただいた。ありがとうございました。

(真田 宗興)

新年交礼会2019

2019年1月22日

今年の新年交礼会は1月22日(火)、学士会館において午前中の講演会に続き12時より開催されました。寒いながらもよい天気恵まれた一日で、来賓16名、会員・会友120名と多くの皆様に参加いただき、賑やかに会は始まりました。菅野重雄会長の挨拶の後、来賓を代表して日本内部統制研究学会会長の神林比洋様からご挨拶をいただき、続いて当会特別顧問の弁護士・山口利昭様からご挨拶をいただきました。その後日本監査役協会専務理事の永田雅仁様によるご挨拶・乾杯のご発声で歓談が始まりました。

食事と楽しい会話で会場も盛り上がったところで、生涯学習部会・同好会・ゴルフ会の各代表から日頃の

活動状況の報告や新たなメンバー勧誘の話などがありました。これらの発表の中では、参加メンバーが減少傾向にあるのでは是非とも参加しませんかと積極的に呼びかけるという場面もありました。会の終盤には恒例の、楽器演奏同好会によるバンド演奏と楽友会のコーラスが披露され、アンコールの声も出るなど盛大な拍手喝采が送られました。最後には、これも恒例となった会場参加者全員による「今日のひととき」の合唱があり、金馬房雄副会長による中締めでお開きとなりました。

(太田 剛)

みなさんの 広場

私の生前整理

古川 孝宏

「生前整理」「終活」などという言葉が気になる年齢になってきました。骨董品・盆栽・人形といった物の蒐集家が亡くなった後の家族のご苦労話を読んだことがあります。家族が受け継いでくれることを望んでいても、なかなかそうはなりません。博物館などもよほど価値のあるものでないと引き取ってくれません。結局のところ、二束三文で売られたり、トラックでまとめて捨てられたりといったことになる場合も多い様です。

私には、物を集める趣味はありません。家も車も、必要以上の服も持っていません。カメラやパソコンは人よりすこし多く持っていますが、基本的には物にはこだわらない方です。ただ、若い頃から本・資料・記録・手紙・写真等を沢山残してきました。これらは、生きてきた証であり、捨てることは出来ません。

記録や思い出を思い切って捨てることを推奨する本が多いのですが、私は賛同出来ません。全てを捨ててすっきりしたと言う人もおられますが、一方、心に空洞が出来て辛い思いをする人もおられます。私は、きっと後者でしょう。

そこで、私が始めた事があります。これらをデジタル化するのは、私のお勧めは、JPEG 画像にすることです。JPEG はサムネイルで一覧できるという利便性があります。一枚一枚が独立していて並べ替え等の操作も簡単です。デスクトップ型パソコンのモニターを縦型に出来るものになると、文庫本や資料の小さな文字も大きく読めて、老眼鏡が不要になります。大画面タブレットを利用すれば、全ての資料をどこでも見られます。

この為の機器類もこの数年で格段に進化しています。五年前に買ったドキュメントスキャナーは重送や紙詰まりが頻繁でしたが、最近買った機械は極めてスムーズです。本をスパスパ切る裁断作業も爽快です。あまり考えず機械的に作業を進めます。相撲

などのスポーツ中継を見ながらするには最適の作業です。

埋もれていた資料や本も、日の目を見る様になりました。昔を思い出しながらのパソコン内の資料整理も楽しいし、後日の検索も簡単です。安くなった大容量ハードディスクでバックアップを行います。無料で使えるクラウドにも保管すれば、たとえ火事や震災でパソコンやハードディスクが壊れても大丈夫です。本棚に空きが出来始めたので、新たな本の購入に意欲も湧いてきました。

共通の思い出や興味を持つ人にデジタル化したものをメールで送信して喜んでもらっています。もし、これらを使って世間に向けて発信したくなれば、ブログやフェイスブックに掲載することも出来ます。人に見せたくない日記等は、暗証番号を使って自分限りにします。人生の最後に全ての記録を消去するのも一瞬です。思わぬ死が来た場合でも、残された人が消去するのに手間はかかりません。貴重だと思えば、子々孫々に遺してくれるでしょう。ブログやフェイスブックも手続きをしなければ遣ります。スキャン作業を終えた大量の紙は、感謝の気持ちを込めつつ丁寧に捨てます。日記や手紙はシュレッダーにかけます。心残りはありません。

私の老いは思い出と共に生きます。「未来しか見ない。過去は振り返らない」といった前向きの姿勢は、五十歳台迄で十分です。苦労したあの仕事も、辛かったあの出来事も、今は思い出です。それがあったからこそ今の自分があります。それを受け入れることで、新しい気力もみなぎってきます。

「永らへば またこの頃や しのばれむ 憂しと見し世ぞ 今は恋しき」と藤原清輔朝臣も歌っておられます。この歌を胸に、楽しいことばかりでは無かるう「老いの坂道」をゆっくり歩んでまいりたいと思っています。

棋友会

新春鴨川合宿大会

参加者：8名

(1月24日・25日) 1泊2日の結果

優勝 小森 克紀 元東電広告

2位 下村 勝利 元鴨川グランドホテル

3位 鈴木 文明 現鴨川グランドホテル



句遊会

一月詠草

兼題…数の子、懐手、当季雑詠

薄味の数の子うまし古希はるか

中山 知祐

数の子や猪口は九谷の昼の酒

宮川 至剛

数の子の黄金引き立つ輪島塗

石原 克己

数の子のぶちぶち友に一人酒

森 邦彦

数の子を摘みて平成名残惜し

小野 信

落暉浴び明日の漁よむ懐手

清家 静楓

懐手いつの間にやら後ろ手に

六川 里風

懐手身分知らずと叱られる

川田 勝美

枯蓮の実みな首垂れランプめき

城戸崎雅崇

藍色の夜の帳や霜の声

佐藤 政百

蠟梅の後ろ姿に香りけり

大仲 正敏

初春やひとり酒飲みうとうと

生江沢五風

空白は埋め切れぬままだ日記果つ

安井 正浩

大晦日事件簿書くや妻の愚痴

眞田 宗興

画友会



ヴェネチアの小運河（イタリア）

訪れた春先の日、水の都ヴェネチアは、街中がカーニヴァル（謝肉祭）の仮装まつりに浮かれていました。でも、一つ裏の小さな運河には、静かな中世のままの街の影が映されていました。

雨宮 久馬



新年の例会での松田先生とモデルさんを囲んでの写真です。画友会では、人物デッサンを冬期に着衣の、夏期にヌードのモデルさんで各2回行なっています。

事務局通信



◆行事報告

第160回理事会

1月17日(木)10:00~12:00 文京区民センター 15

会報委員会

編集 1月11日(金)10:00~12:00 事務局 7

校正 1月23日(水)10:00~12:00 事務局 7

広報委員会

1月8日(火)14:00~17:00 文京区民センター 7

◇一般部会

第549回研修見学会

1月4日(金)10:00~15:00 東海七福神めぐり 60

第755回講演会

1月22日(火)10:00~11:30 学士会館 154

講師 第一生命経済研究所(株)

経済調査部・首席エコノミスト 熊野英生氏

演題 2019年日本経済の展望～イノシシ年の波乱～

新年交礼会

1月22日(火)12:00~14:00 学士会館 120

◇監査部会

第315回監査セミナー

1月31日(木)14:30~17:00 スカイホール 69

(他体験:1名、個別:3名、定期:2名)

講師 伊藤忠商事(株)理事 別府正之助氏

テーマ 監査役(会)と内部監査部門の指揮・命令関係を
規定化しよう

特別監査セミナー

1月9日(水)14:30~15:40 スカイホール 89

(他体験:1名、定期:2名)

講師 金融庁企画市場局企業開示課課長 井上俊剛氏

テーマ 日本におけるコーポレートガバナンス改革

第7回監査基礎講座

1月15日(火)14:00~17:00 文京区民センター 24

講師 王子ネピア(株)常勤監査役 村田耕治氏

日経サイエンス(株)監査役 平野俊章氏

テーマ わが社の監査活動

第5回会計基礎講座

1月29日(火)14:00~17:00 文京区民センター 22

講師 元応用地質(株)常勤監査役 石北俊彦氏

テーマ 決算と法規制

～会社法における会計規定を中心にして～

第223回監査実務研究会

1月23日(水)14:00~17:00 文京シビックセンター 33

問題提起者 サイバートラスト(株)常勤監査役 小林正一氏

コーディネータ 元(株)トライアイズ常勤監査役 古川孝宏氏

テーマ スルガ銀行問題と監査役の役割

第74回スタディグループ分科会

1月17日(木)14:30~17:00 文京区民センター 29

発表者

コーディネータ

三菱電機システムサービス(株)

常勤監査役 菊谷 純氏

横河計測(株)常勤監査役 丸山孝生氏

東電設計(株)常勤監査役 名倉良夫氏

兼松コミュニケーションズ(株)

常勤監査役 並木雅史氏

テーマ

どこまでやるの妥当性監査

～その視点、方法、範囲を考える～

第75回監査技術ゼミ

1月25日(金)14:00~17:00 文京シビックセンター 41

講師 東洋大学 国際学部グローバル・イノベーション学科

教授 毛利正人氏

テーマ グループ経営におけるガバナンス、内部統制、
監査体制について

監査部会

1月7日(月)14:00~16:00 事務局 6

監査等委員(会)職務確認書委員会

1月25日(金)9:30~12:00 事務局 7

取締役職務執行確認書委員会

1月18日(金)10:00~12:00 昭和リース会議室 5

1月29日(火)16:00~17:00 事務局 4

監査役職務確認書委員会

1月30日(水)14:00~17:00 文京区民センター 5

企業集団内部統制監査委員会

1月10日(木)10:00~12:00 (株)ぺんてるの会議室 8

1月18日(金)10:00~12:00 事務局 7

◇生涯学習部会

写友会 例会

1月10日(木)13:30~17:00 文京シビックセンター 16

画友会

1月14日(月)13:30~17:00 文京シビックセンター 12

句遊会 例会

1月9日(水)14:00~16:00 菱友会会議室 9

楽友会 例会

1月17日(木)14:00~17:00 浅草教会 23

1月24日(木)14:00~17:00 〃 17

棋友会 合宿大会

1月24日(木)~25日(金) 鴨川グランドホテル 8

◇同好会

声友会

1月22日(火)15:00~18:00 (銀座)505 8

エッセイクラブ

1月15日(火)13:45~16:30 菱友会会議室 9

楽器演奏同好会

1月19日(土)14:00~17:00 横浜練習会場 10

江戸文化研究会

1月26日(土)15:00~17:00 文京シビックセンター 24

◆会員・会友異動

(新入会員)

○岡坂充容 生活協同組合連合会大学生協事業連合 監事

○坂本俊彦 (株)JALグランドサービス 常勤監査役

会 員	会 友	計
192	142	334

2019.1月末現在

編集後記

☆今年も熊野英生氏の講演で始まった。2017年から2018年にかけては、米国トランプ政権の国務長官ティラーソン、国防長官マティス二人の賢人がトランプの無理な政策を話だけは聞いて適切な対応をしていたが、二人とも昨年辞任し、今はトランプを野に放ったと同然の状態になっているという。今年はトランプ発の「乱」で日本も大きな影響を受けるおそれがあるとのこと。国内については、5月に元号が変わり、「何とか元年」がはやりそうだ。10%増税については、その対策費が増税分を上回り、マクロにみれば2019年度はその影響は少ない。☆今年の七福神巡りは「東海七福神巡り」。晴天に恵まれ60名が参加した。明治天皇は遷都の際、荏原神社を訪れている。調べてみるとその行列は3300名であったという。遠い明治維新の頃の情景が脳裏に浮かんできた。毎年、幹事の方には頭が下がる思いだが、2002年から担当していただいた眞田さんが七福神巡り(研修見学会)の幹事を今年で引退されとのこと。長い間ありがとうございました。☆監査セミナーの記事は、都合により4月号に掲載する予定です。(川村 知重)